



- Link “新風”

第26号
(通算第119号)



華やかに開催された北京オリンピックも無事閉幕され、9月になりましたが、まだまだ暑い日が続いています。みなさん、夏バテしてはいませんか？
いよいよ38期がスタートします。心身共に万全な態勢を整えて、今期も頑張ってください！

第38期に突入、PDCAサイクルで継続的改善を推進しよう！

第38期に入り、まず思うことは、皆さんが元気で新しい期を迎えられたことで、ありがたいことと感謝しています。今期も安全衛生には十分留意していきたいものです。

さて、前期は、まずまずの成績で締めることができ、第二工場建設、新生産管理システムへの移行という大きな投資も行い、会社の前進を実感しています。しかし、変わらぬ課題も残されたままの現実もあります。英知を結集してこれらの課題に全力で当たっていきましょう。今期の経営計画及び中期計画は、9月6日の年度方針発表会で明らかにしますが、重点項目は、不適合の撲滅、技術の伝承と共有、新規開拓、新商品開発、財務体質強化、新生産管理システムの定着などがあります。

きわめて重要なことで、再認識してもらいたいことは、それらは全てP・D・C・Aをまわすことにより達成されるものだということです。そのことを一時も忘れないで欲しい。

この新しい出発の日に新しい同志を2名迎えることとなりました。持田奈緒美さんと川口祐樹君で、営業本部に配属となります。二人とも当社を選んでくれてありがとう、心より歓迎します。月並みですが、環境に慣れ、初心を忘れず、早く一人前の戦力になって会社の発展、社会への貢献に尽力ください。そのために、私どもはあなた方を指導することを惜しみません。しばらくは研修で「教育」を受けることになりますが、絶対に受身でいてはいけません。いつも「なぜ、何故？」を返し、知らないことを積極的に理解するようにしてください。あなた方と接することにより、私を含めた先輩諸氏は、あなた方に教えていただくことも多々ありますし、指導のためには勉強しなければなりません。そういう意味で私は、「教育」ではなく「共育」と思っています。お互いがんばりましょう。

二人のために私の自己紹介を。私は、昭和24(1949年)年7月に静岡県小笠郡(現菊川市)で生れ、県立掛川西高等学校、立教大学と進み卒業後は、当時不織布のトップメーカーであった日本バイリーン(株)にお世話になりました。大阪本社、滋賀工場で研修後、岐阜営業所に配属され衣料用芯地を婦人服メーカーに販売する業務に携わり、営業活動は、専ら女性デザイナーを対象とし、悪戦苦闘したものです。社会人という全く未知の世界に入り、右往左往していたことを思い出しますが、同時によき上司、よき先輩に恵まれ、ご指導いただき営業マンとして立ち立てたことをありがたく、今でも感謝の念を忘れたことはありません。就職して3年経った昭和51年10月にバイリーンを退社し、当社に入社しました。

縁があったわけで、小学校の教員をしていた実家の母(父は私が2歳のとき戦病死で世界)と3年前に亡くなった当社の赤堀吉弥会長とは、いとこ同士でした。跡取りがないので、できれば血のつながった親戚から子どもとして迎えたいとの強い意志があり、岐阜でぶらぶらしている私に白羽の矢が立ったわけです。気が進まない話でしたが周囲の強い進めもあって沼津にきたわけです。退社届けを出したときは、本当につらかったことを憶えています。さあ、これからバイリーンのために働いてもらうぞと、思われているときに去るのは裏切るようで…

バイリーン時代に会った多くの方々や多くの経験は私にとってとても貴重な財産となりました。昔のことは今回このぐらいにして、機会を見つけたら綴ってみたいと思っています。

いま、全般的に景気が減速していますが、明るい日が当たっている「ところ」もたくさんあるはず。我々はそこに焦点を当てて勝ち残っていかなければなりません。

私は、「私利私欲を持たず、会社は預かりもの」と考え、会社を潰さないよう、働く人たちがより幸せになるようこれからも精進していきます。

社長 赤堀肇紀

森本 清 顧問を偲ぶ

プラントエンジニアリング室 渡辺安裕

夜いきなり電話が鳴り、森本さんが亡くなったことを知らされました。ええー嘘でしょう？信じられない電話でした。

森本さんと初めてお会いしたのは18年前、協和発酵様が宇部工場に医薬品工場を建設する時だった記憶しています。弊社は、計量装置と搬送装置を納入いたしました。当時の森本さんはこの工場建設の技術責任者で、自分が納得できない装置は納入させないと目を光らせ、各メーカーに恐れられていました。その高い技術力を活かす特許を何件も保有されていました。「明日協和発酵で特許の表彰を受けることになったよ。」と、嬉しそうに話をしてくれた森本さんを思い出します。

また、森本さんの友人の多さにも驚かされました。仕事の関係者から夜の飲み屋街の方々まで。森本さんの突然の訃報は、この多く友人に悲しみを与える結果となりました。残念で残念でしかたありません。今後私達は森本さんが残してくれた技術と人の輪を活かし、これから前に前に進んでいきたいと思っています。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

いろいろご指導ありがとうございました。

